

特許出願公告及特許拔萃

特許出願公告拔萃

連續條鋸鑄造法 (8 年特許公告第 70 號、公告 8-1-9、東京中島統一) 必要に應じ無限に連續せる條鋸を湯より直接に簡単に而も密質に製造する目的を以て環狀の鑄型體の内面に鑄型溝を無端に設けて鑄型體を連續的に回轉し之に湯を連續的に注入し鑄型溝内の湯を遠心力の作用にて密質ならしめ其の連續的に凝固し來るものに篋片を作動せしめ製品を連續的に剥き取る連續的に剥き取る連續條鋸鑄造法。

強靱合金鐵 (8 年特許公告第 73 號、公告 8-1-11、大阪市、住友伸銅鋼管株式會社) 硬度極めて大にして然かも靱性に富み特に熱處理を施すことなくして各種尖刀器類及工具類を製作し得る合金鐵を得んとする目的を以て $C\ 1.7$ 乃至 4% Mo 、 6 乃至 30% Cr 乃至 8% 殘部 Fe 及其の不純物より成ることを特徴とする強靱合金鐵。

附記 1、不純物として $Si\ 2\%$ 以下 $Mn\ 3\%$ 以下 $P\ 1\%$ 以下 $S\ 0.05$ 以下 $Cu\ 3\%$ 以下を含有する前記強靱合金鐵 2、 $Ni\ 2\%$ 以下 $Co\ 3\%$ 以下 $W\ 5\%$ 以下 $V\ 5\%$ 以下 $Al\ 1\%$ 以下を 1 種又は 1 種以上含有する前記及附記第 1 項記載の強靱合金鐵。

酸化銅整流鋅製造法 (8 年特許公告第 99 號、公告 8-1-11、東京市、株式會社日立製作所)、整流作用良好なる酸化銅整流鋅を簡易に製造する目的を以て金屬 Cu を適當に酸化處理し銅母體上に酸化第一銅と其の外層に酸化第二銅を生成せしめたるものを濃度を適當に制御せる硫化鹽類の溶液を以て處理することを特徴とする酸化銅整流鋅製造法。

附記 1、酸化第一銅層を剝離するに足る濃き濃度の硫化曹達液を以て酸化第二銅層を剝離せしむべくせる前記の方法。

2、酸化第一銅層の上表に硫化銅を沈着する程度に薄き濃度の硫化曹達液を以て酸化第一銅層の上表 1 部を硫化銅に轉化せしむべくせる前記の方法。

アルミニウム合金 (8 年特許公告第 100 號、公告 8-1-11、東京市、古河電氣工業株式會社) 質強靱にして海水に對し耐蝕性極めて良好なる Al 合金を得んとする目的を以て $Cl\ 0.01\%$ 乃至 5% と $Cr\ 0.01\%$ 乃至 5% と $Mg\ 0.1$ 乃至 7% と殘餘として Al を含有せる Al 合金。

附記 1、 $Mn\ 5\%$ 以下を含有する前記の合金。

2、不純物として普通程度の $FeSi$ を含有 Al を使用する前記の合金。

耐蝕性大なる強力輕合金 (8 年特許公告第 102 號、公告 8-1-11、東京府、航究研究所長)、腐蝕抵抗強大にして而も優良なる機械的性質を有する輕合金を得んとする目的を以て $Cd\ 3-25\%$ $Zn\ 1-6\%$ $Mn\ 0.1-2\%$ Mg 殘餘を含有して或る耐蝕性大なる強力輕合金。

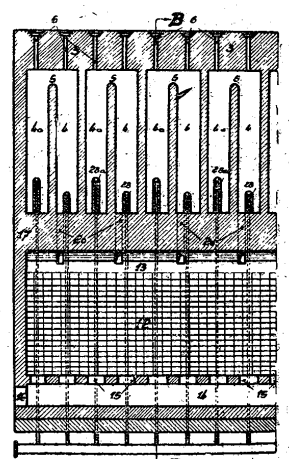
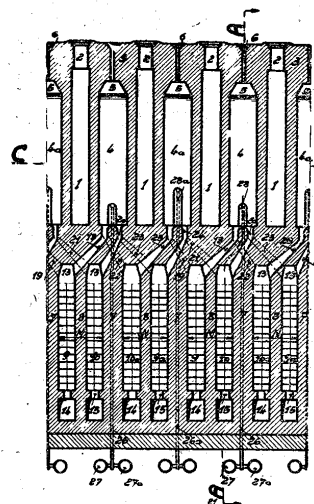
鐵又は鋼に附着せる銅又は其合金を除去する清淨劑 (8 年特許公告第 107 號、公告 8-1-13、東京市、三菱造船株式會社)、 Fe 又は鋼の表面に附着せる Cu は又は其の合金を Fe 鋼を腐蝕せしむることなくして容易に除去し得べき清淨劑を得る目的を以て過硼酸鹽過硫酸鹽過酸化水素又は過酸化 Ba の如きアルカリ性溶液に於て安定なる酸化劑に NH_4 及 OH イオンを發生すべき資料又は青化物を加へ之をアルカリ性の溶液となしたる Fe 又は鋼に附着せる Cu 又は其の合金を除去する清淨劑。

骸炭爐 (8 年特許公告第 118 號、公告 8-1-13 獨國、シー、

オットワ)、此の種骸炭爐に於ける熱效率を増大せしめんとする目的を以て蓄熱室に依り低品位の瓦斯及空氣を豫熱し該蓄熱室は骸炭室の縱方向に延展し且つ加熱壁の縱方向に於て交互に上下兩方向に加熱する加熱焔管に連結し而も一加熱時中は同一方向に媒質を送入せらるゝ 2 個の各個の蓄熱室を各骸炭室の下方に製設し其の一方の蓄熱室をば空氣の豫熱に他方の蓄熱室をば低品位瓦斯の豫熱に使用し此等蓄熱室の對は爐廓の縱方向に於て相異なる對の相隣接せる蓄熱室には共に豫熱せらるべき同一媒質(空氣が若しくは瓦斯)を送入し而して此等蓄熱室の一方の對には一加熱時に媒質を送入し之に次ぐ加熱時には他方の對に送入すべきを特徴として交互に媒質の豫熱及び吸入をなし加之各空氣及び瓦斯蓄熱室と加熱焔管との連結部の長さを各蓄熱室と加熱焔管との關係的位置を考慮して其の連結を適當に爲すことに依りて能ふ限り均等ならしめ又連結部の斷面を變化することに依りて相隣接せる加熱壁に於ける加熱力の相違を能ふ限り少からしむることを特徴とする骸炭爐。

第 1 圖

第 2 圖



瓦斯檢定器の改良 (8 年特許公告第 128 號、公告 8-1-13、北海道、佐山總平)、瓦斯燃焼室内に於ける瓦斯の入替及び瓦斯の完全燃焼を速にし又外函中に満したる液體の冷却力に依りて溫度の平衡を速ならしめ以て精密且つ迅速に瓦斯の分量を測定し得べき瓦斯檢定器を得る目的を以て自熱せる金屬線を以て可燃性瓦斯を燃焼せしめて起る壓力の減少の程度を水柱計を用ひて計りて瓦斯の分量を測定する瓦斯檢定器に於て瓦斯燃焼器及補償器と瓦斯流入用管とを液體を満したる冷却用外函内に裝置したることを特徴とする瓦斯檢定器(圖略)。

廻轉鑄型の内壁面上に凝固し得る液體材料を噴霧せしむる事に依りて中空體を鑄造する方法 (8 年特許公告第 130 號、公告 8-1-13、佛國、デイミトリ、サンリ、ド、ラヴオー) 鑄型體のテンパリングを省略せんとする目的を以て凝固し得る液體材料を流動せしむる傾射樋を中空廻轉鑄型内に配置し該樋の先部には數多の區劃溝を設け該溝の末端に於て開口する管よりの噴射瓦斯によりて前記樋より溝の末端に流出せしめらるゝ液體材料を廻轉鑄型の内壁面に噴霧擴散せしめ以て中空體を鑄造する方法(圖略)。

アルミニウム銅を脂肪油重合裝置に使用する方法 (8 年特許公告第 149 號、公告 8-1-16、東京市、水田政吉外 1 名)、

重合作用により生成せる有害物に依る装置要部の腐蝕若くは減耗を極少ならしめ併せて色相良好にして且つ灰分其の他の不純物含有少き良質の重合油を得る目的を以て高級潤滑油配合用たる脂肪油重合油を製造するに當り重合作用の際起る可き装置の腐蝕減耗を防ぎ併せて品質優良のものを得る爲に要部を形成する目的を以て Al 銅を適當の割合に配合して得たる特殊合金を使用する方法。

附記 1、前記の目的に適合せしむる爲 Al 80—95 % Cu 5—20 % の範圍の百分比を以て製出せる合金材料を装置部に使用する方法。

金庫又は格納庫用合金鋼 (8 年特許公告第 150 號、公告 8—1—16、東京市、株式會社日本製鋼所)、適度に焼鈍すれば機械加工容易なる程度に軟くなり又適度に熱處理を施すときは充分硬度高きものを得且瓦斯切断絶對に不可能なる特性を有し金庫其の他貴重品の格納庫壁の如く普通の工具又は瓦斯切断器による穿孔切断等外部よりの攻撃に對し充分安全を必要とするものに適し且製作上比較的成形加工容易なる金庫又は格納壁用鋼材を供給せんとする目的を以て Cr 6 乃至 9 % Ni 3 乃至 8 % Si 1 乃至 3 % 及び C 0.7 % 以下殘部 Fe 及び其の不純物よりなる金庫又は格納庫壁用合金鋼。

單方向導電用酸化銅板製造方法 (8 年特許公告第 152 號、公告 8—1—16、東京市、東亞電機株式會社)、直ちに使用し得べき表面を有する單方向導電用酸化銅板を簡單に得る目的を以て Cu 板を O の存在に於て加熱して其の上に酸化第一銅及酸化第二銅の層を生成せしめたる後之れを鹽化第一銅と鹽化曹達又は鹽化加里との混合物を攝氏 200 度乃至 500 度に於て熔融せるものの中に於て加熱所理し酸化第二銅層を該熔融混合物の作用により除去することによる單方向導電用酸化銅板の製造方法。

爆發瓦斯檢出機 (8 年特許公告第 169 號、公告 8—1—16、東京市、財團法人理化學研究所)、ガソリン、メタン又は水素瓦斯と空氣との混合物の如き爆發性瓦斯混合物の爆發に對する危險度を容易且正確に豫知し從つて之を未然に防止するを得しむべき小型にして然も感度大なる爆發瓦斯檢出機を得んとする目的を以て空氣室及瓦斯室を有し之等の室の異なる氣體の光線屈折率の異なることを應用せる屈折計と該屈折計の空氣室の壓力調節裝置と爆發危險度指示計とを具へ屈折計に於ける干涉縞を上記空氣室の壓力の調節に依りて標準可視位置に移動せしめ爆發危險度指示計には爆發危險度を數量的目盛及該目盛の部分に色分をなすことにより指示すべくしたる爆發瓦斯檢出機。

海水の腐蝕に耐ゆるアルミニウム輕合金 (8 年特許公告第 188 號、公告 8—1—17、東京市、三菱造船株式會社)、海水に依りて殆ど全く腐蝕する事なき輕合金を得んとする目的を以て Cr 0.3 乃至 3.0 % Mg 0.3 乃至 7.0 % Fe 0.3 乃至 3.0 % Mn 2.5 乃至 7.0 % 殘部 Al 及び其の不純物を含有せしめたる耐腐蝕性 Al 輕合金。

白色合金 (8 年特許公告第 189 號、公告 8—1—17、兵庫縣、加藤信太郎)、軟性にして伸長性に富み耐酸力強く特に裝身具用として人體皮膚に接するも分泌物の爲め變色せず腐蝕せらるゝ虞なき白金代用の合金たらしむる目的を以て Ag 0.5—20 % Cr 8—30 % Co 0.2—8 % Cu 0.2—15 % 殘餘として Ni を含有する白色合金。

旋刀工具角度検査機 (8 年特許公告第 215 號、公告 8—1—18、東京市、財團法人理化學研究所)、旋刀工具の刀先に於ける該角度及び刻み角捩れ角を光學的に極めて精密に検査し得る旋刀工具角度検査機を得る目的を以て旋刀工具を裝置し且任意角廻轉せしめ得

べき機構を設け其の廻轉角を示す目盛を有せしめ前記旋刀工具の軸に並行なる位置と直角なる位置とに起伏せしめ得べく顯微鏡を設け該顯微鏡にはクロスワイヤを有せしめ且該顯微鏡を其の光軸の周りに廻轉せしむる機構及光軸と直角方向に移動せしむる機構と其の廻轉角を示す目盛を有せしめたる旋刀工具角度検査機。

耐摩合金 (8 年特許公告第 267 號、公告 8—1—20、徳島市、紙谷善吉)、大なる摩滅抵抗と耐久力とを有し特に内燃機關ピストンメタル軸承其他高壓高速度の摩擦作用を受くる部分材料として好適なる合金を得んとする目的を以て Cu 67.0 乃至 69.5 % Ni 22.0 乃至 23.5 % Sn 4.0 乃至 5.5 % Mn 2.0 乃至 3.5 % Al 1.0 乃至 2.5 % P, Fe, V, Ti の 1 種又は數種を 2.5 % までとを含有せる耐摩合金。

純粹なるタングステン又は其の化合物の製法 (8 年特許公告第 272 號、公告 8—1—20、東京市、三菱造船株式會社)、容易なる操作により不純なる W 又は其の化合物若は其の鑽石等より純粹なる W 又は其の化合物を高き得率に於て取得すべき方法を得る目的を以て不純なる W 又は不純なる W 化合物若は W 鑽石等は還元劑を加へ攝氏 200 度以上より加熱しつゝハロゲン瓦斯を通して W のハロゲン化合物を昇華せしめて取得することとを特徴とし以下適當なる處理を施して純粹なる W 又は純粹なる W 化合物を製造する方法。

附記 1、昇華物を還元することに依り純粹なる W を得る前記記載の方法。

2、昇華物を加熱することにより純粹なる酸化タングステンを得る前記記載の方法。

3、昇華物を水又は稀薄酸にて處理し純粹なる酸化タングステンを得る前記記載の方法。

4、昇華物をアルカリにて處理し不純物の沈澱を分別したる後溶液酸を酸性とし純粹なる酸化タングステンを得る前記記載の方法。

5、取得せる純粹なる酸化タングステンを還元して純粹なる W を得る前記並に附記第 3 及第 4 記載の方法。

耐火物鑄造法 (8 年特許公告第 299 號、公告 8—1—23、東京市、旭硝子株式會社)、空隙なき且緻密なる鑄造耐火物を得んとする目的を以て鑄型上部開口上に上下に開口せる補助筒を置き熔融せる耐火物資料を此筒より注入して鑄型及補助筒を共に充滿するに至らしめ次いで補助筒及鑄型を通して鑄型内に挿入せられたる電極を介して電流を送り注入熔融物の固化の進行に連れて電極を次第に引上ぐることにより最後に固化すべき鑄造體の部分とを上方に移行せしめて補助筒頂部に至らしめ最後の補助筒内の耐火物が全く固化せざる半固化體なる間に之を補助筒と共に鑄造體固有部分より除去することより成る耐火物鑄造法。

蓄電池電極基板鑄造裝置 (8 年特許公告第 298 號公告 8—1—23、京都市、日本電池株式會社)、型面を好適なる傾斜位置に保ち斜に鉛又は鉛合金の熔融を注流することを得べからしめ空氣の介在の爲に氣孔を生じ或は棒の中斷せらるゝことを防止し熟練を要せずして完全精緻なる製品を形成すべからしむる目的を以て多數の桿を集合し相隣れる桿の接觸面に排氣用極微細間隙を備へたる母型面を形成せしめたる 2 枚の鑄型を開閉自在に開着したる其一端を基臺に樞着し他端を上下に調整し該母型面を水平面に對して任意の傾斜角度に支持し得べく構成せる蓄電池電極基板鑄造裝置。

耐火モルタルの製造法 (8 年特許公告第 322 號、公告 8—1—24、和氣正太郎) 混合物を水にて混和するに當り礬土酸曹達と苛

性苦土の後分解作用に依り生ずる礬土酸苦土の糊狀沈澱は苛性曹達の粘稠性と相待ち耐火モルタルに必要な粘稠度を得ると同時に高温に加熱する以前に於ても硬化性にして高温に加熱するに當り收縮性殆んど無く且つ耐火度高く耐火煉瓦の接合性極めて強大なる耐火モルタルを得んとする目的を以てボーキサイトの如き高礬土含有物に約倍量の炭酸曹達を加へて 1,200° 位に加熱熔融して礬土酸曹達を主成分とする物質を作り一方に於て鹽基性炭酸苦土を加熱して水に非常に可溶性なる苛性苦土を造り此の 2 物質を重量比にて 4 對 1 の割合に混合し細粉したるものと復州硬質粘土又は高級木節粘土の如き耐火度高き耐火粘土を 1,200° 内外に焼きて生ずるシャモットを適當の粉末にしたるものとを混合する全工程の結合を特徴とする耐火モルタルの製造法。

洗炭機械 (8 年特許公告第 326 號、公告 8—1—24、直江津市、田代利光)、穴明き鐵板上の原料炭の選別を有效ならしめ且能率を増大ならしむる目的を以て上部を開放し下部に排出口を設けたる筒形堅槽を隣接し互に其の上部及下部を連通し各の筒形堅槽の中央部に螺旋形の穴明き鐵板を取附け其の上部の半徑を浮遊炭分界袖板にて仕切り穴明き鐵板の下端に接近しプロペラー形唧子を設置し該唧子をして夫々反對の方向に廻轉運動並に上下運動を併發せしむ可く構成したる洗炭機械。

錫又アンチモニー器具に樹脂質物を張合せる方法 (8 年特許公告第 349 號、公告 8—1—24、東京市、伊藤政次郎)、軟質にして厚み薄き金屬器具面に硬直なる樹脂質物を簡單なる機構を以て剝離の虞れ無く強固に密着せしめんとする目的を以て Hg を適量に加へて熔融點を之に張合すべき樹脂質物の硬化度に略々等しからしめたる Sn 又は Sb 地金にて器具形を成形し之を金型内に充填せる樹脂質物上に載せて兩者を加熱加壓して樹脂質物を硬化せしむる際に樹脂質物に接觸せる基材面を半熔融解の狀態に誘ひ其面を不規則の梨地狀に荒し之に樹脂質物を浸入硬化せしめて兩者を密着せしむるを特徴とする Sn 又は Sb 器具に樹脂質物を張合せる方法。

硫黃製煉裝置 (8 年特許公告第 425 號、公告 8—1—30、東京市、藤山常一)、爐筒の中間部に於て間接加熱を行ひ外氣と遮斷せられたる狀態に於て硫黃分を蒸發し且つ該高熱部より直ちに凝結器に導くことにより簡單なる作業と連續的の所理とによりて燃料を節約し且つ作業中硫黃分の徒に燃焼損失することを防止すると共に亞硫酸瓦斯發散に因る煙害を除去し圓滑なる作業に依り高き實收率に於て極めて經濟的に硫黃礦を連續的に製煉せしむる目的を以て長き筒狀を以てなせる堅型の耐熱性物質より成る爐筒に於て其の上部を原礦の豫熱乾燥室とし其中間部を加熱蒸發室とし其下方部を廢滓冷却室とし爐筒部上部より裝入せし硫黃原礦を乾燥豫熱せし後其中間部に於て外周より加熱して硫黃分を熔融蒸發せしめ之れを該爐筒中間部内側に形成せられたる凹所に收集して凝結器に導き硫黃を回収すると共に硫黃の抽出を了りし廢滓は爐筒下部に於て冷却せられ逐次下端部より排除して内容物を下降せしむることにより爐筒内部を外氣と遮斷して其新陳代謝を行はしめ以て硫黃礦を連續的に製煉せしむる如く構成せる硫黃製煉裝置。

アルミニウムと錫との合金製造法 (8 年特許公告第 426 號、公告 8—1—30、英國、ハーバート、タスマン、デイウィース)、比重輕く然も抗張力大にして良好なる伸長率を有し又耐腐蝕性其他の有利なる性質を有して優良なる鋼の代用として或目的に對し使用し得るが如き Al 合金を容易に得んとする目的を以て Al と Sn の合金製造に於て Sn を Sn 置換金屬の合金例へば Zn Mg 合金或は

Cu Mg 合金との反應によりて酸化錫より誘出せしめ之を直ちに熔融 Al と合金せしむることを特徴とする Al Sn 合金の製造法。

附記 1、Mg の量を酸化錫を還元するに要するより過剰に使用し以て形成合金中に Mg をも含有せしむることより成る前記記載の Sn Al 合金製造法

2、粒狀又は細碎せる Zn の Mg 合金を坩堝内に入れ之を可成酸化亞鉛を混じたる酸化錫にて被覆し此等を還元氣を有する爐内に於て赤熱溫度に於て約 30 分間保持し次で更に少なくとも Al の融解點に加熱し後此の融解塊を融解 Al と混和することより成る前記々載の錫 Al 合金製造法

3、前記の目的を以て反應資料を

酸化錫	重量に於て	8 分
酸化亞鉛	同	5 分
Zn Mg 合金	同	40 分
Al	同	60 分

の割合に使用することより成る Sn Al 合金製造法。

繰返し振り疲勞試驗機 (8 年特許公告第 436 號、公告 8—1—30、京都市、西原利夫)、材料の繰返し振り疲勞試驗を正確且容易に行ふ目的を以て既知のモーメントオブイナーシャを有するハズミ車を裝置せる繰返し振り疲勞試驗機に於て細隙を有する搖動桿を前記ハズミ車に固定しこれに相對して細隙を有せる測微計を裝置し兩細隙を通過する光線を遮斷することにより瞬間の振幅の微細なる測定を機械的に行ひ得る如くし一方試驗片の疲勞に起因するハズミの振幅の急激なる減少に應じて鋭敏に作用すべくハズミ車の敲桿により敲かるゝ所の油槽中に浮べる浮子を設け浮子の移動により電流を斷續し得る如くせる裝置。

ゾルブテフ(收着性)鐵鉛塗料 (8 年特許公告第 438 號、公告 8—1—30、京都市、鉛粉塗料株式會社)、從來の光明丹塗料の本質的性能を改良し其の有する收着性を増大し以て強大なる防錆力を具有する鐵鉛塗料を得る目的を以て酸化第 1 鐵若くは 0 との親和力大なる Fe 又は低級酸化鐵の微細末を一般公知の塗料ベヒクル並に塗料資料に配劑して得る特殊塗料と光明丹とより成るゾルブテフ(收着性)鐵鉛塗料。

高クローム鐵合金の加工方法 (8 年特許公告第 445 號、公告 8—1—30、東京市、日本電熱線製造株式會社)、從來よりも遂に高温度に耐へ耐久力強き良好なる電熱線其他の材料を得んとする目的を以て體心立方格子型を有する高 Cr Fe 合金を先づ攝氏 1,200 度乃至 600 の範圍に於て熱時焼軋又は鍛鍊をなして約 50 % 以上の加工を施し之を緩冷又は急冷し次に再結晶を起さぬ程度例へば攝氏 100 度乃至 200 度に豫熱して軋軋し次に再結晶を起すも之を成長せざる時間範圍まで焼鈍し之を急冷又は緩冷し更に攝氏 100 度乃至 200 度に豫熱して低温加工を施したる後前述の如く焼鈍し順次此の豫熱溫度を低下しこの直徑を小ならしめ遂に常溫に於て豫熱すること無く線引きし得べくせる順序工程の結合を特徴とする高 Cr Fe 合金の加工方法。

マグネシウム又は其合金の防蝕方法の改良 (8 年特許公告第 463 號、公告 8—2—1、仙臺市、金屬材料研究所長)、斯種金屬の表面に美麗なる着色防蝕被膜を密着せしめ有効に其腐蝕を防止せんとする目的を以て苛性アルカリ又は炭酸アルカリと磷酸アルカリ及磷酸マグネシウムの混合溶液又は上記中より磷酸アルカリを除去せる混合溶液にクローム酸又は重クローム酸アルカリ又は其アルカリは金屬鹽及明礬又は硫酸アルミニウムを添加せる混合溶液中にて目的物を煮沸し其の表面に磷酸マグネシウムとクローム酸又は重ク

ローマ酸マグネシウムの混合又は大部分前記兩者の1より成る被覆を形成せしむることを特徴とする Mg 又は其合金の防蝕方法。

熔接装置 (8年特許公告第465號、公告8—2—1、東京市、株式会社芝浦製作所)、熔接せらるべき接目に密接して熔接機の加工體保持装置に關聯せられ熔接せらるべき接目に沿うて熔接作働部を自動的に指導し長き接目を自動的に熔接し得べき熔接装置を得る目的を以て熔接せらるべき接目に沿うて延長し熔接位置に加工體を保持する装置と熔接作働部と熔接せらるべき接目に沿うて前記熔接作働部を移動する装置と熔接せらるべき接目に隣接して前記保持装置上に加減し得る様支持せられたる指導板と前記熔接作働部を抑制して前記指導板の指導面に壓接せしむる装置とよりなる熔接装置。

階級式焙燒爐 (8年特許公告第468號、公告8—2—1、獨國、メタルゲゼルシャフト:アクチエンゲゼルシャフト)、處理材料を上段床より下段床に急速に落下せしめて爐の能率を高むると共に爐中に於ける過熱並之に依る皮殻形成及過冷却を防止して材料の均等なる加熱を行ふ焙燒爐を得んとする目的を以て中央及周圍の開口以外に尙火床の中央部と周圍との間に種々の間隔を置いて落下口を有せしめたることより成る階級式焙燒爐。

無鍛接鎖製造方法 (8年特許公告第471號、公告8—2—1、福岡縣、萩尾善次郎)、敏速に長く連續せる無鍛接鎖を簡単に製造し其形狀極めて整一ならしむることを得るのみならず材料を節約し工費を低廉ならしめんとする目的を以て第一に各環の外接點を切除し第二に各環の兩側内面を切除する2種のロールの作用に依りて任意材質の十字形断面の直棒より各環入れ組みたる鎖形を形成する如く横縦の接續交互に切除し第3に直角に交叉連接する各環を交互に左右に押し開く様斜に押壓する斜面の溝底を有するロールに作用せしめたる後穿孔機に依りて各環の内接部を突穿絶離せしめ最後に鎖に適合する溝形を有するロールにて整一に修正を加ふる無鍛接鎖製造方法。

軸承合金 (8年特許公告第474號、公告8—2—1、福島市、紙谷善吉)、硬質にして脆からず且摩擦度極めて低き軸承合金を得んとする目的を以て Pb 20%乃至52% Sn 12%乃至47% Sb 5%乃至17% Cu 4%乃至88% Cr 0.2%乃至1.3% As 0.07%乃至2% Bi 0.01%乃至3.4% Fe 0.25%乃至2%なる基礎合金と Mg Si Sr の1種又は數種の2.5%迄とを含有せしめたる軸承合金。

耐酸性合金 (8年特許公告第496號、公告8—2—3、大阪市、黒田豊)、強度並に展伸性に富み加工容易安全なることによりて蓄電池極板鉛室の内張り等各種の化學的用途を利用して之等をして輕量強靱ならしめ得べき有益なる耐酸性合金を供給せんとする目的を以て100分中 Mo 0.5乃至10.0 Sb 5.0以下を含み殘餘は Pb より成る耐酸性合金。

合金の改良 (8年特許公告第493號、公告8—2—3、仙臺市、金屬材料研究所長)、原特許第95475號に於ける特性を殆ど阻害する事なく廉價にして酸化少く且加工甚しく困難ならずして同様の目的を達し得る合金を得る目的を以て Cr 25乃至40% Ni 20乃至55%及 Co 10%以下を含有し殘部 Fe より成り標準狀態に於て非磁性を有する合金。

薄板製造機に於ける鉋刀隠蔽裝置 (8年特許公告第501號、公告8—2—3、大連市、永野櫻)、復動時に起る鉋刀の無用の熱害及び摩擦を免れしむる自然的にして且つ簡固なる機構を得んとする目的を以て中心軸に據りて僅かの角度間を起伏する如く作られ且つ

動かし易き様發條力又は重力にて浮游狀平衡或は之に近き狀態を保たしめたる鉋取付鉋を原材の切削往復動と同一往復動をなす部分に刻れたるラックと齧み合ふ齒輪より得たる回轉摩擦力によりて起伏せしめ以て鉋の刀端をして鉋盤面上に出沒せしむる如くさせる薄板製造機に於ける鉋。

薄板製造に於ける原材壓下裝置 (8年特許公告第502號、公告8—2—3、大連市、永野櫻)、原材の偏削を防ぐ自己調整性を有する動壓力を鉋盤上に極等に保持すべき簡固にして且つ取扱易き機構を得むとする目的を以て原材押蓋上に掛けたる2本の横木の各兩端に結へる4本のロープを原料保持棒に裝備せる4個の滑車に掛けて該棒中の原材を鉋盤面に垂直に引下し更に1本のロープを以て搖動桿の三滑車を經て機體の不動部分迄引出し之が先端に適當なる加壓をなす如くせる薄板製造機に於ける原材壓下裝置。

シーメンス、マルチン式又は他形式の爐の空氣及瓦斯通路壁を冷却する方法 (8年特許公告第529號、公告8—2—6、伊國、テルニ・ソシエタ・ベル・リンドストリア・エ・レツトリテ)逸出瓦斯道路の煉瓦壁に對する高溫逸出瓦斯の溫度を低下し以て通路の煉瓦壁に對する破壊作用を除去して該煉瓦壁を長期の使用に耐えしむると共に通路の大きさを一定に保持し以て爐の燃燒狀態を常に良好ならしむる目的を以て加熱されたる逸出燃燒瓦斯が爐の瓦斯通路に通過する以前該瓦斯に寒冷なる非活性瓦斯を混合して通路煉瓦壁に對する破壊作用を減殺し若くは同く除去する様逸出瓦斯の溫度を低下せしめられたるシーメンス、マルチン式又は他の熔鑄爐の空氣及瓦斯通路壁を冷却する方法。

窒化電熱爐に於ける爐内點檢裝置 (8年特許公告第549號、公告8—2—6、大阪市、浦山眞三)、試材片を浸皿に収めて爐内に吊設し隨時之を爐外に取出して點檢し得且爐外に取出す場合貫孔の内外端の一若くは檢體によりて爐内外の通氣を遮斷せる爲爐内に充滿せるアムモニア瓦斯を室内に漏出せしむることなく又爐内熱量の放出せらるゝを防止し得んとする目的を以て爐體に縦の貫孔を穿設し該貫孔に挿脱自在に挿着せしめたる栓體を穿設し上下し得べき吊線の上端は冠蓋に固定し下端には試材受皿を吊下し該蓋は貫孔上端口に氣密に冠着し得る如くし又受皿面に環溝を設け之に可熔合金熔融物を收め該受皿を引上げた際貫孔下端口縁を該環溝中に挿入せしめ氣密狀態に保たしむるべくせる窒化電熱爐に於ける爐内點檢裝置。

内方に肉厚とせる端部を備ふる管の製造法 (8年特許公告第560號、公告8—2—6、獨國、フエライニーグテ・スタールウエルケ・アクチエンゲゼルシャフト)、最も有效にして且經濟的なる方法により優秀なる性質を有し耐久性並に使用價值の大なる製品を得んとする目的を以て心金肩狀部を壓延する間材料が後方に伸延し得る如く壓延操作前に環狀凹所を備ふる鞘狀材料片が肩狀部を有する心金上に於て壓延成形せらるゝことを特徴とする内方に肉厚とせる端部を備ふる管の製造法。

電氣により鐵及鋼の棒を鍛造する方法の改良 (8年特許公告第596號、公告8—2—10、瑞西國、ソシエタ・ホールディング・デ・プレバ・エプロセデジアシツノ・プール・レポーシャージ・エレクトリック)、從來の此種の方法の缺點を除き如何する大き及形狀の金屬片をも鍛造し得べき方法を得んとする目的を以て鑄造せらるべき片が2個の電極の内鐵床として作働する電極に對して押壓せられ之を抱持する他の電極内を摺動することにより2個の電極間に加熱せらるゝ鍛造方法に於て鍛造作業中兩電極間の距離が増大せられ之と同時に鍛造せらるべき片上の軸方向の壓力が豫め定められ且一

定不變の値を有せしむることを特徴とする鍛造方法。

附記 1、鐵床として作働する電極を周期に且變速度にて移動せしむることにより圓形又は直線形若くは此等の組合せの形狀の鍛造片を生成するを得せしむる前記々載の方法。

2、鐵床として作働する電極を一定の位置に保持し導動電極を鍛造せらるべき片の裝入と反對の方向に移動することにより球形又は之と類似の外形を有する鍛造片を生成する前記々載の方法。

3、彎曲形及角形の鍛造片を生成するため電極を交互に移動する前記々載の方法。

4、鐵床として作働する電極を鍛造すべき棒の裝入の方向に移動せしめ之と同時に導動電極は棒の裝入の方向と反對の方向に移動せしむる前記々載の方法。

特 許 抜 萃

マグネシウムを基體とする合金 (特許第 93408 號、特許 7—11—28、米國、アメリカン、マグネシウム、コーポレーション) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 9 號)

マグネシウムを主成分とする合金の改良 (特許第 93409 號、特許 7—11—28、米國、アメリカン、マグネシウム、コーポレーション)

鐵道路盤材料並びに廻轉材料の製造法 (特許第 98404 號、特許 7—11—28、獨國、クロエツクネル、ウエルケ、アクチエンゲゼルシャフト、アツプタイリング、ゲオルグスマリン、ウエルケ)、從來未だ達すること能はざりし破斷に對する安定性非常に大なる摩滅に對する抵抗性良好なる鍛接性並びに加工性及び更に加工する間に膨脹狀態を呈することに對する最小の感性的點に於て優れたる材料を得んとする目的を以て $C\ 0.5-1.0\%$ 、 $Mn\ 0.5-0.9\%$ 、 $Si\ 0.2-0.4\%$ 、 $Cr\ 0.5-1.5\%$ 及 $Mo\ 0.05-0.5\%$ を含有する鋼合金を使用することを特徴とする鐵道路盤材料及び廻轉材料の製造法。

磁性合金の燒鈍法 (特許第 98425 號、特許 7—11—30、東京市、古河電氣工業株式會社) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 7 號)

鐵の防鏽方法 (特許第 98441 號、特許 7—12—1、高松市、宇條佐治郎)、極めて優秀なる防鏽被覆を Fe の表面に經濟的に形成せしめんとする目的を以て磷酸に Mn を溶解し適度の濃度に稀釋

したる溶液を煮沸し其の中に Fe を 1 乃至 2 時間浸漬したる後取出し該鐵の表面が乾かざる時に粉碎したる S を散布附着せしめ火焰上にて該鐵の表面に附着せる硫黃を燃燒せしめて該鐵の表面に防鏽被覆を形成せしむる Fe の防鏽方法。

連續炭素電極製造裝置 (特許第 98478 號、特許 7—12—2、長野市、信越窒素肥料株式會社)。

金合金 (特許第 98533 號、特許、—12—6、東京府、稻見角治郎) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 7 號)。

硫黃溶解製煉法 (特許第 98558 號、特許 7—1—7、東京市、久保利之吉外 2 名)。

鐵又は鐵合金の處理方法 (特許第 98580 號、特許 7—12—9 仙臺市、金屬材料研究所長)。

磁性材料處理方法 特許第 93653 號、特許 7—12—14、米國、ウイスターン、エレクトリック、コムパニー) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 9 號)

硬質非鐵合金 (特許第 93663 號、特許 7—12—14、大阪市、株式會社住友電線製造所) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 9 號)

軸心を鋼と成し延展部を鑄鐵と成したるロール製造法 (特許第 93745 號、特許 7—12—19、大阪、光田久一) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 8 號)

鐵又は鋼を防鏽する方法 (特許第 98756 號、特許 7—12—21 佛國、ウイリアム、ハワード、コール) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 10 號)

金屬窒化用容器 (特許第 93793 號、特許 7—12—23、東京市、飯笹小四郎) (公告拔萃記載誌第 18 年 9 號)。

耐腐蝕性アルミニウム合金 (特許第 93808 號、特許 7—12—23、東京市、三菱造船株式會社) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 10 號)。

マグネシウム又は其合金に耐蝕性被覆を作る方法 (特許第 98363 號、特許 7—12—26、航空研究所長) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 10 號)。

誘導電氣爐の保護裝置 (特許第 98861 號、特許 7—12—26、東京市、株式會社芝浦製作所) (公告拔萃記載誌鐵と鋼第 18 年 10 號)。